

宗教改革500年に想う

教団代表 藤本 満



「十字架のことは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です」

（「1コリント」・18）

10月の終わりをもって、宗教改革500年、すなわちプロテスタント教会500年を迎えます。宗教改革400年ほどのように祝われたのでしょうか。

ドイツでは近隣諸国との戦争を前に宰相ヴィルムヘルム二世は、戦意高揚のためにヴィッテンベルク城教会の扉を修復させ、そこにルターの「九五箇条の提題」の全文を刻み込ませました。ルターの宗教改革は政治利用され、権力の統一と反映を彼に託したのです。

そもそも、ルターは「権威、支配、繁栄」を指向する当時のカトリック教会を批判して、それを「栄光の神学」と批判しました。宗教改革を起こしたルターが説いたのは、「十字架の神学」です。この世にあつては愚かであり無力である十字架に、神は救いの力を現されました。それをこの世の目で見ることができません。

十字架という悲惨な出来事に神の救いを見ることが出来るのは、自らの罪に打ちひしがれ、神の恵みにする信仰者だけです。信仰者は悟るので、神がそこに存在しておられないかのように思える苦悩の出来事の中に、神はご自身を隠すように存在しておられることを。

このことを知った者は同じように悲劇と絶望の連続であるこの世界の出来事の中に、神がおられることを

知っています。

栄光の神学は、人生が順調で豊かで健康であることを根拠に、神が共におられることを実感することでしょう。それらを失ってしまったなら、神を見失います。

しかし、所詮それは、人間中心の宗教、健康と幸福を求める人間が作り出した宗教的作り事にすぎません。神を見失うような場面に、神が隠されたかたちで共にいてくださることを信じる、それが福音に生きる者の「十字架の神学」です。

*

信仰、勝利、祝福を目指すことは、全能なる神、愛なる神を信じている私たちにとって、当然とも言えることでしょう。しかし、知らず知らずのうちに、この「信仰万能主義」が、ルターが批判した「栄光の神学」となっている場合は多々あるに違いありません。いつのまにかこの世的な願望に信仰が染まっていくのです。もちろん、私たちは復活の力を、神の栄光の輝きを知っています。「信じる者にはどんなこともできるのです」とおっしゃった主の言葉を正面から受け止めています。

それでも私たちは心から信じています。飼ひ葉桶に寝かせられた幼子イエスを。貧しき者、弱き者と共に歩まれた主を。死の陰の谷を共に行ってくださる牧者なるキリストを。そして何よりも、十字架の御苦しみをもって私たちの試練を共に担ってくださる主を。主が私たちに十字架を背負うようおっしゃったことを。

目次

- 宗教改革500年に想う……藤本 満……1
- 謝恩日聖日を迎えて、東北聖会報告……2
- とにキャン報告、IWFの働きと霊想……3
- 海外トピックス、国内局コラム、eラーニング……4
- 教団運営委員会、北海道ポプラ聖会、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

厚生委員会から……

お祈りとご協力へのお願い 引退された先生方を支える 謝恩日聖日を迎えます

厚生委員会 池田光重

9月第三聖日は教団の「謝恩日聖日」です。信仰の導き手として、また御霊に導かれてみことばの解き明かしをしてくださる先生方に感謝を表すための聖日です。しかし、この日は誰が定めたのだろうかとちよつと疑問を持ちました。多分、教団の指導者の先生ではなく、信徒の方々の発案だったのではないかと思っています。近年、「牧師と信徒の共労」ということが提言されていますが、牧師の健康と福祉を担うのは、信徒の大きな役割ではないかと思えます。特に引退後の先生方の生活に関心を示し、支えていくのは信徒の果たす分であり、これは強いられてするのではなく、喜んで、感謝の思いをもってなされるべき事ではないかと思えます。



教団の基本理念に「自給・自立」が謳われています。神さまに全て委ねるとき、あらゆる面での必要を満たし、養って下さるといふ「信仰」からきていると思えます。しかし、エリヤを養った神は、カラスを用い、ツアレファテのやもめを用いられました。私たちは、神がエリヤを養うために用いられた現代の小さなカラスであり、やもめの役割を与えられているのではないのでしょうか。特に、やもめはエリヤを養うために用いられましたが、自分も大きな祝福に与りました。やもめが一生懸命努力したとも、頑張ったとも書かれています。淡々と日常を送っていたように思えます。

厚生資金献金に加わっている信徒一人ひとりが、強いられてでもなく、喜んで感謝をもってお献げする時、まさに神さまに用いられているお互いである事を覚えていたいと思えます。「謝恩日聖日」は先生方に対する感謝とともに、献金を通して支える役目を与えて下さっている神への感謝の時であることを覚えていたいと思えます。11月12日。←厚生委員会

「彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、聖徒たちを支える交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。」(IIコリント八:3~4) 「祈りのネットワーク」に掲載されている引退された先生方のリストは、2016年度版では2ページでしたが、2017年度版では2ページ半に増えていきます。それだけ、支援のための必要が増えたことになりました。

厚生委員長から……

皆さまのお祈り ご協力に感謝

厚生委員長 北田直人

引退された先生方は、その生涯をささげて、これまで多くのものを私たちに与えてくださいました。今の私たちがいるのは、そのおかげです。また引退後も、執り成しの祈りをささげていくくださることで、全国の教会は多くの励ましを受けています。

9月17日の「謝恩日聖日」では、受けた多くのことに対する感謝を特別な献金によって表したいと思えます。そのささげものが先生方の日々を支えるために用いられ、この先も祈りの手を上げつづけていただき、なお励ましを受けてゆけたら幸いです。

東北聖会の報告

みことばに自らを重ねて……

神が求めておられるきよめ



秋田教会 神谷光一

第43回東北聖会は8月1~3日に、郡山のホテルバーデンを会場として、講師に代表の藤本満先生、女性部集会には上田教会で長くご奉仕された横山容子先生、また、教会学校のために越谷教会の川村宏美先生を迎えて行われ、東北各地から集った兄弟が一堂に会し、恵みの饗宴に与りました。二夜にわたる聖会では、横山先生、川村先生のきよめの証しに励ましをいただき、「神が求めておられるきよめ」のテーマのもと、ヤコブの生涯からベテルとペヌエルの経験が取り上げられ、主の臨在に触れたヤコブが、枕した石を献げる姿に、味わった苦い経験を主に委ねてゆくことが重ね合わされ、また、祈りの格闘の中に「あなたの名は何というのか」との問いかけの中に、自らの真の姿を知らされ、正直な告白をもって御前に出たヤコブが変貌されたこと、また、その経験を定着させ深める道として恵みの手段が示され、そ

れゆえあきらめずに御前に入るようにとの招きに多くの兄弟が応ずることができました。また聖書講義は、終末・再臨について、ローマ八章28節を中心に、各々が答の見えないうめきと共に抱える現実への究極の回答として、私たちと共に、あえて「すべてを働かせ益とする神」と歩み、待ち望む姿勢が語られました。派遣集会にはヨハネ二一章より「あなたはいつさいのことをご存じです」と題して語られ、失敗を経験したペテロを通し、見通しのない自分自身を、すべてを知りうるお方に信頼して投げかけてゆく応答がなされ、恵みを携えつつ散会となりました。



今回は、教会学校のために教団青年部よりユースミッションの青年たちが応援に駆けつけて、子どもたちと共に喜びあふみつつ、恵みのご奉仕がなされたことを感謝と共にご報告いたします。

第10回 とにキャン Revolution ~変わりたい 8月8日(火)~11日(金)



和歌山教会 久保光彦

10回目となる全国中高生キャン「とにキャン」は、聖山高原チャペルを会場として開催され、今年にはキリスト者学生会(KGK)の大嶋重徳総主事を講師としてお迎えしました。多くの参加者とボランティアが与えられ、祝福にあふれたキャンとなりました。前日までの台風の影響等で、やむを得ず参加をキャンセルするキャンパーが数名いたことは非常に残念でしたが、その他には特に大きな事故やけがもなく全日程が守られたことは大きな感謝でした。

今年のテーマは「Revolution ~変わりたい」です。レクチャーを含め、計5回、大嶋師から語られる、掘り下げられたみことばのメッセージを通して、参加者一同が豊かな恵みを受け、「みことば」によって励まされ、主の前に取り扱われるひと時となりました。

初日の夜の集会では、ルカ一五章1~7節からみことばが開かれ、主はたった一匹の迷い出た羊



のために、犠牲をいとわず、それが見つかるまで探し続ける「探す神」であるということ、また神は私たちの事を誰よりもよく知っておられるお方であるということが語られました。そして、イエスマは、私たちが変わること、変わるための祈りをささげるのを待っておられるお方であると語られ、神様と自分の関係について見つめなおす時となりました。

二日目の午前は、中高生に必要な「性と結婚」のレクチャーが行われました。聖書から、結婚の意義について、また性というものについて、实际的に語られました。キャンパーの周囲は聖書が示す恋愛観・結婚観とは逆行する中にあって、クリスチャンとしての生き方に誇りを持って、みことばによって生かされ、常に祈りを持つて決断をすること、クリスチャンの交わりの中にあつて、パウロのような先輩、バルナバのような友

人、テモテのような後輩を持つことなどのお勧めがありました。夜の集会では、ヨハネ五章1~14節が開かれ、罪の問題が取り上げられました。「変わることをあきらめさせるものとしての罪、その中にあると居心地の良いものとしての罪などの側面から、罪の恐ろしさについて、また私たちをそこから救い出そうと望まれるイエス様について語られました。

キャンプファイアでは、ローマ一二章から、神の憐みによって生き、理にかなった礼拝として、この世と妥協せず信仰の馬拉ソンを走り続けることへの招きがなされました。最終日の派遣礼拝では、「告白したように生きる」ことが使徒の働き一章19~26節より語られ、アンテオケ教会の姿を通して、宣教のメッセージが語られました。まかれた種が芽を出し、豊かな実りをもたらすようにお祈りください。

私が初めて宣教師の召命を受けた2003年には、奉仕の場所も働きの内容もわかっていなかったことを思い出します。宣教師の子として育ったケニアに戻ることはないと思っていました。どこかの国の教会に協力しながら奉仕することを主が望んでおられることはわかっていました。神学校で学んでいた時、主は私を日本に召されましたが、伝道協力についての現実的なアイデアはまだ何も持っていないませんでした。

2014年の秋、フルタイムの宣教師として日本に戻ってきたとき、いくつかの教会(多くは東京の)から話があり、伝道の一つとして英語を使ったプログラムを持ちたいとのことでした。英語を使ったクラスは教会のある地域の必要にかなって、近隣の方々に仕えることで関係が発展し、地域に教会と福音を紹介する助けになるとの期待がありました。

深川教会からはじまった子ども

IWFの働きの中で 霊想



ファン・ファン・イングリッシュ



WGM宣教師
ホリー・ミュールハイゼン

向ける英語クラスは評判が良く、以後神学院教会、名古屋教会、富士見台教会、大宮教会へと広がっていきました。

英語の講義や教室の雰囲気よりも、ゲームをしたり、絵本を読んだり、工作することに重点を置きました。その日の終わりに、子どもたちやそのご家族が、①英語は楽しく、②教会は私たちが愛してくる人々のいる安全で親しみやすい場所である、と受け止めて帰って行かれるとしたら、それは素晴らしい一歩です。しかし、私たちの願いは、クラスのメンバーが聖霊の働き、教会の働き、クリスチャンの証しによって主を知るようになることです。福音をあかすことはクリスチャンの責任ですが、成長を与えるのは神です。このクラスに触れた家族の心と生活に聖霊が働き続けてくださるようにもお祈りください。特に、イースターやクリスマス季節には、その本当の意味をはっきりと示し、子どもとその家族を福音に導くことを目標とすることができそうです。

ファン・ファン・イングリッシュクラスは各教会との協力、奉仕を可能とする中心的な方法の一つとなりました。特別集会などでさらに多くの教会を訪れる機会も増えました。変わらない福音のメッセージを伝えるために、新しく、ユニークな方法をこれからも見いだせるように、主が備えておられると期待しています。

深川教会からはじまった子ども

教団運営委員会から……

意見交換を 重ねながら

広報 川嶋直行



必要があるとの意見が出されました。聖宣神学院の「70周年記念事業改修工事企画書」について検討し、男子寮の個室化と本館のトイレ改修の件が承認されました。人權委員会発行の「ハラスメント・パンフレット」の事例集は、共に考えるのが目的であることを理解していただけるよう工夫を施した上で発行されます。

7月24、25日、本部会議室において教団運営委員会が開かれました。冒頭、藤本満代表より1列王記一七章が開かれ、厳しい現状にあっても「私の仕えている主は生きておられる」(一節)との信仰を失わず、課題に取り組んで行きましょうとお勧めがありました。

内山勝国内教会局長より、金沢教会の協力牧師として土屋繁師(関西聖書神学校卒、牧師歴37年、前松任聖書教会牧師)をお迎えした件について、教会や兼任者の健康を鑑み、複数の関係者から意見を聞いた上で、速やかに決定された旨説明があり、承認されました。他教団から協力牧師を迎える場合の条例整備が必要であるとの意見が付されました。秋期教会会を前に、教団と地域教会との相互理解を深めるため、条例に則り、BA・教区主事連絡会を行うことが提案され承認されました。

世界宣教局関係で、宣教地の牧師館等の不動産取得や管理について、責任の所在を明確にしておく

タスクフォースから発信された「組織改革案」についてのアンケート集計を踏まえ、修正を加えた再提案を検討しました。アンケートを通して様々な意見が寄せられ、意見の多様性を認識すると共に、提出されなかった方々の「声なき声」にも耳を傾けるべきという意見も出されました。内容については、運営委員会便りや2回目のアンケートを通してさらに意見交換が重ねられて行きます。建設的なご意見をお寄せください。

教団の運営委員会の構成メンバーについても検討されました。信徒委員の増加に伴い、実質的な討議が難しくなるのではないかと懸念に対して、役職の兼任や、教務会の役割を再定義する等の意見が出されました。教団本部における信徒の活躍と、各個教会における「牧師と信徒の協働体制」にはギャップがあります。今回の「組織改革」では各個教会の体制に直接言及はありませんが、今後「牧師の任命・監督制」と「信徒の主体性」がバランスよく機能するための知恵が求められています。

北海道ポプラ聖会……

女性・壮年合同部会 主は今も生きておられる

恵庭教会 小田 満

8月11日(金)に北海道教区のポプラ聖会を、札幌教会を会場に開催しました。講師には佐藤道直先生(彦根教会)をお迎えしました。テーマは「主は今も生きておられる」(詩篇六五・2)

佐藤道直先生から札幌教会開拓期の信仰の戦いについてお証しを伺い、同時に、祈りによる2教会会堂建設の証しもお聞きしました。札幌教会で最初に受洗された方も来会され感謝でした。今回は女性部・壮年部の合同部会を持つことができました。参加者28名。



リードオルガン講習会

◆私の教会では2007年に渡辺芳子先生をお招きし、ピアノによる奏楽者講習会を持ちました。以来、姉妹たちはみなピアノで奏楽をしています。リードオルガンは私だけですが、先生を探して次にはリードオルガンの奏楽を学びたいというのが私の長年の願いでした◆時は流れ、震災後の奉仕の中で、市内の教会との交わりの輪が拡がり、某教会で毎月パイプオルガンの講習会が持たれていて、講師は東京から来られていること、希望するならリードオルガンも教えていただけるということを知りました。まずは私がその教会に通って学ぶことにしました。

書道に卓越した友人に、「どうしたら筆の字が上手になる?」と尋ねたことがあります。「先生に付くことよ、でない自己流になるから」と言われたことがあります。私のオルガンがこんなひどい自己流とは。何度も挫折し、辞めようと思いましたが◆その時期を経て、姉妹たちにもピアノだけではなくオルガンでの奏楽もしてほしい、と思うようになり、うちの教会の3名の姉妹たちだけを受講者とし、親しい他教会からの方も

含め20余名の見学者の下、リードオルガン奏楽者養成講座を、今年の6月に、先のW先生を迎えて持つことができました。プレトリークは信徒の方にも好評で、続く3名の公開レッスンは、姉妹たちにとっては初めての重たい経験だったとは思いますが得難い機会でもありました。あと2回あります◆教会の近くにある高校の、東京在住の卒業生が中心となり、震災後から合唱を通して福島の復興のために良い働きを東京で継続しています。その代表を務めるのは他教団の方ですが、帰省する度にうちの教会で奏楽を担当し30年にもなります。その方が「養成講座に私も出たい」と言われるほど、W先生が高名で超多忙であることを知りました。そのような方を遣わして、小さな群れに御目をとめてくださる神さまに深い感謝を捧げています。また非常に高度な奏楽の技術を持ちながら、驚くほどに謙遜なこのお二人に倣って、第一歩を踏み出した姉妹たちが奏楽者として健全に成長するようにと願っています。「讚美は心の直ぐな人たちにふさわしい」詩篇三三・1

(久保以津子)

巻頭言

ハンナの祈り



世界宣教局
野田 禎

「私はその子の一生を主にやさげします。」

(Iサムエル記一章11節)
ハンナには子供がありませんでした。そして悩み、主の宮の柱のそばで一生懸命祈りました。子供



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

を授けてくださいという熱心な祈りでした。祭司エリはその姿を見て、酔っているのではないかと思っただけです。

ハンナはなぜ「酔っている」と思われてしまったのかを考えてみました。ハンナが苦しみの中で祈りながら、やがてそれを打ち破って、神様が御翼で覆ってくださるようになっていく感覚、神様の圧倒的な恵みに包まれているような感じをされていたのではないのでしょうか。私たちも一人密室で叫ぶような思いで祈りを始めるのですが、壁がポンと破られたような確信と、平安が心を覆うことがありますか。ハンナが酔うどころか、真剣に祈っていたことを知ったエリは「イスラエルの神が、あなたの願ったその願いをかなえて

くださるように」と言いました。すでに平安に満たされていたハンナは、エリのことばに、神様から保証の印が押されたように感じ、帰ります。やがてハンナは子を授かり、子供を連れてエリのところに来ます。ハンナは祈りを忘れていませんでした。私たちはしばしば祈りが答えられると、その約束を忘れたり、もつたいと思ってしまうことがあります。ハンナは忘れていませんでした。素晴らしい信仰です。

福島第一バプテスト教会の佐藤彰先生の話を知りました。お母様はクリスチャンですが、先生はクリスチャンになることなく青年になります。あるとき久しぶりに教会に行き、ベンチに座った瞬間「僕は、牧師になる」そう思い、その時にイエス様を信じたそうです。母親にその決断を話したところ「そんなこと、とっくに知っているよ。だって、おまえが教会の幼稚園に行っていたとき、『ぼくはおおきくなったら、ぼくしになる』と言った。母さんはね、すぐに教会に連れて行って、講壇の前で『この子をお献げします。神様のご用をするものとなりますように』と祈ったから。そうなることはそのときから知っていたよ」そう仰ったそうです。

私たちも、ハンナのようなお祈りをしようではありませんか。宣教に困難なことがあっても、祈って乗り越える信仰。神様は私たちの祈りに答えて下さる方です。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2017年8月10日

8月8日の選挙の前に、目安として前後2週間の渡航を控えるように、ということになったので、ほとんどの短期ボランティアの方々が7月の第2週頃までに帰国されました。米国で進学する時期に合わせてこの頃帰国される長期宣教師も多く、構内の人口がやや減少しています。

他方、全国規模の看護師のストライキは継続中のため、閉鎖状態の病院からこちらに来られる患者さんもあって病棟は過密気味です。7月の初頭には脳神経外科手術の集中週があり、翌週はテヌウェク・チームだけで心臓外科週が計画されましたが、同時進行で食道がんの手術も集中して行われたため、ICU、HDU(準ICU)が過密となり、手術室の回復室内に一時的に設けられた心臓外科後の患者さん方のためのCCUも過密、一般の回復室も過密、人手は少ない中で、また幾人かの術後の方々も容態が通常より長く不

安定だったり、亡くなられる方もあったりという中で本当に良くスタッフが耐えてくれたと思います。背後の篤いお祈りに心より感謝申し上げます。まだストライキの方の解決の目途はつかず、昨晩緊急手術を受けた二人の患者さんが、今日の夕方になってまだ回復室から病棟に移れず、回復室がふさがっているために予定の手術のキャンセルが検討されるような状態です。引き続き解決のためにお祈りをよろしくお願い致します。

そんな中、看護学校で教鞭をとっておられる長期宣教師のご友人で、手術室勤務歴25年、教育の方面で博士号を持っておられるP姉妹が2週間ほど滞在され、看護学校や他病棟の看護師向けのセミナーとは別に、手術室スタッフのために早朝セミナーを4回してくださいました。出たくても脳外科や心臓外科の早朝準備のために出られなかったスタッフがいたり、集まりがいつも以上に遅くフルに時間を使えなかったりということはありました。基本的なことを含め、手術室向けの内容を講義してください、スタッフの反応も積極的に感謝でした。「ああ良かった」で終わらず、継続して実践面が変化していくことが課題です。心臓外科にも長くかかわっておられたので、CCUを担当するスタッフにもベッドサイドで合間を縫って具体的な講義をしてください感謝でした。次は天国で再会、でも主が許されるならまた来るこ

とも考えています、と言ってくださり感謝です。

公衆衛生部では、1年前から各地域を回り、「平和」について啓蒙活動をしていたと聞きます。一説によると2大対立候補の支持率はどちらも40数パーセントということです。8月8日の選挙(大統領選挙を含め6種類の選挙が行われま

す)を覚えて、引き続き、選挙と前後の活動が平和裏に行われるようお祈りください。■



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2017年8月6日

私共が一時帰国している8週間、台中教会では世話係の愛兄弟方を中心に、留守の礼拝が変わらずに守られています。7月30日の聖日には、台風9号が直撃し、新幹線や高速バス、交通機関が運休などで、部分的に寸断される中、台中市内は大きな被害も降雨もなく、礼拝が守られました。

今回は、私共の見通しでは、この3年のうちに教会の顔ぶれが様変わりし、留守を守ることは難しい

のではないかと感じていました。けれども、現在、教会に集っていただける幾人かの愛兄弟方の礼拝への渴望、信仰的な申し出に励まされ、留守の教会のための諸準備をしました。8週分のメッセージをDVDにし、週報や出席表などの印刷物を用意し、世話係として比較的若い世代にゆだねました。今回の世話係の愛兄弟方はこれまで以上に熱心にパワーポイントの操作、礼拝後に世話係の愛兄弟方が集会の進行をリハーサルする形で、何度も確認されるほどでした。折々に、こちらに届く集会報告を見ながら、主がすべてを守り、導いてくださっていることに御名を崇めています。台南日本語集会でも世話係2名を中心にDVDの形で、変わらずに集会が守られています。育てなされるのは神さまです。引き続き、留守の台中教会、台南日本語集会が守られますようお祈り下さい。■

(写真は訪問先の諸教会です)



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2017年8月10日

新しいカリキュラム導入のためウェスレアン大学ロザリス校は8月から新学期が始まります。他校はまだ6月からの学期開始となっているため、常喜は6月にセブ校、そして今月は短期集中講義のためにパラワン校を訪問しました。現在、パラワン校には全部で9人の学生が在籍しています。このパラワン校を支援している教区はパラ



ワン教区だけです。経済的支援は僅かで、学生たちもほとんどは授業料などは支払えずにいます。とはいえ、学生たちは空いた土地を農園として利用し自給自足しています。こうした境遇の中で、今回は7人の学生たちと「詩篇と知恵文学」について学びました。

集中講義を終え教区の代議委員会がナラであるということ、校長夫人マージー先生と代議員モスカイト兄と一緒に車で訪ねました。モスカイト兄は73歳で、このパラワン教区の開拓者で、どのようにして彼がミンダナオ島からパラワン島に移住し、信徒としての教区の開拓に携わってきたかを話して聞かせてくださいました。彼は信徒として教会に仕えることに導かれ若い方々を支援してきました。こうしたビジョンを持って主に仕えている信徒に出会うことも大きな恵みでした。■

主の御名を賛美します。7月はスタッフの出入りが多く、そのスタッフが不足を埋めたり、呼び出しがあったりなどで忙しい中から始まりました。そのよう中にあっても、事故なく守られたことは感謝でした。7月上旬にクリリーナスタッフの一人がバイクの事故に遭いました。事故直後は意識を失うような大きな事故で、右手首と腰の一部の骨に影響が出るケガをしました。幸いなことにすぐに隣町にある1時間先のモンゼ州の病院へと運ばれ応急処置がなされ、命に別状なく一時退院をしました。その後、月1回首都ルサカから整形外科の専門医が来るモバイル・クリニックで診察を受け、手術の手術が必要と診断されました。多くの労を富沢宣教師が担ってくださり、無事に右手首の手術を受けられました。これから数か月は自宅療養が必要となります。7月22日にジェンボにある、ピルグリム・ウェスレアン教会の聖書学校



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2017年7月31日

の卒業式が持たれました。卒業生は在任の生徒と通信教育の生徒、合計30人を超えました。公共に開かれた式であり、300人を超える参加者が訪れる大きな式となりました。特に今年は50回目を記念する卒業式でもあり、ザンビアのキリスト教団体の方や、この地域の頭領など多くの来賓を迎えました。また式の中で、この50年目を記念して、聖書学校から聖書大学という地位に格上げすることを公表されました。ここまでに至るのに様々な中を通られたことが話されていましたが、この記念すべき日に公表できたことを御名を崇め感謝してしました。聖書大学になることで、学科も増え、将来的に医療・看護学科も入ることが言われ、現在あるクリニックが病院へとなる必要性も語られました。

以前から、クリニックが病院へとなることは祈られていましたが、このことを受け、病院となるのが現実的になってきました。ピルグリム・ウェスレアン教会の代表のカレンボさんがこの卒業式の翌日の日曜日にジェンボ教会でメッセージをしてくださり、その中で卒業式で発表されたビジョンの振り返りとともに、目指すものは神様であること、神様のためにという志を語られました。また、現在ドナーから日本円で約100万円の寄付がクリニックに与えられたことも話されました。今後この献金を用いて、クリニックの外來を新しく立て直そうという計画が出

ています。宣教師館建設ですが、ここに来て思いがけない進展がありました。ずっと保留されていた電線の配線が、ついに実行されます。たまたま診察に関わった患者が電気会社の方で、今ちょうど隣接している高校の配線工事をしていており、私たちの配線のことを気にかけて友人の重役に話をしてくださいました。私たちの配線もやってくれるということで、その話をした翌日に配線準備が始まりました。



宣教師館について大きなサプライズがありました。本当に神様のなさることに御名を崇めるばかりです。電気会社に何度か連絡しても電話を取ってもらえず、モンゼの町の会社まで出向きました。配線につながる工事の予定はどうなっているのか確認のためです。そこで言われたことは、必要な白いコードがないのでできない。そのコードもいつ手に入るかわから

ないので、いつ工事ができるかわからないと言われてがっかりして帰ってきました。その夜、根廻宣教師から、きょう患者さんで電気会社から仕事を請け負っている方が来られ、後でこの状況を話すことができ、なかなか工事してくれない状況を知っていただきました。すると彼が電気会社に直接電話をして必要なことを確認したところ、配線に必要な電柱を建てて良いということになりました。現在は、電柱を建てるのが進められています。

クリニックは、寒いせいか患者さんの出足が遅いようです。スタッフの一人が、モーターバイク事故に遭い手首の骨折(3箇所)と腰骨の損傷があり特別なコルセットが必要です。昨日なんとか手首のプレート手術が無事に終わったということでした。事故当時は意識が無くなったということに心配しましたが、腰と手首の他は大丈夫のようです。普段仕事を通して良い証しがされている方で、私たちも励まされています。退院や再入院の助けをさせて頂きました。回復のためにお祈りをお願いいたします。クリニックでは人手不足の中、一人のボランティアの助けをかりてみんな頑張ってくださいています。私は、帰国準備に入っています。

■会計報告7月分
宣教師献金 二、三五〇、五二二円
月平均 二、〇九一、四三〇円

お祈りの課題

ザンビア (根廻)

- ◆最善の時・方法・値段で宣教師が与えられるように
- ◆電気配線が無事に終わるように働きを通して神様の栄光が顕わされるように

ザンビア (富澤)

- ◆職員工クストレスさんの回復のため
- ◆クリニックが主の証人として用いられますように

◆帰国準備のため

◆カンボジア (篤田緑乃)

- ◆建設工事中にある3棟のKCC本部、宣教師館の完成に至るまでの御守りと、内装、家具のための必要が満たされるよう
- ◆KCC伝道者に聖霊による救霊の重荷が注がれ、結果が豊かに実ることを

- ◆マーク宣教師の事故後の快復並びに11月までの短期帰国報告の祝福を
- ◆ケニア (篤田就子)
- ◆脳神経外科、心臓外科の特別週が守られた感謝
- ◆看護師ストライキの解決のため
- ◆8月8日予定の大統領選挙及び関連の活動が平和裏に行われるように

台湾 (平瀬)

- ◆留守の教会のみ守りのため。台中教会と台南日本語集会の祝福のため
- ◆8月29日に再赴任します。9月からの働きへの私たちの諸準備

のため。緊迫するアジア情勢の中で、台湾の治安が安定し続けられるように

- ◆9月は台湾では新学年です。子どもたちの学びと学校生活の守りのため
- ◆台湾を取り巻く国際情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定を見るように

香港 (鹿島)

- ◆入会式がありました。転籍後の歩みの上に導きと祝福を
- ◆教会員の健康と霊的な成長、特に男性中心の祈禱会のため
- ◆牧師夫妻の広州・深圳の出入りの安全と働きのため

フィリピン (豊田)

- ◆新校長アレックス先生のリーダーシップのために。学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ、学びと訓練に励むことができるように
- ◆常喜の神学教育の働きのために。今学期は『ウエスレー神学』『タニエル書・黙示録』を教えています

- ◆事故、事件、けが、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのため(恭子10月出産予定)
- ◆東京国際教会 (篤田康毅・由理)
- ◆8年間の東京国際基督教教会における華人宣教が守られた感謝
- ◆今後の東京国際基督教会の歩みの祝福、特に日本語関係の働きが正しく導かれるように
- ◆巡回のために、霊肉や生活が整えられるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

シンプルに、複雑に

院長 ● 河村 從彦

「そう見えたことだろう。……すばらしく良い地だった」
(民数記二三・33、一四・7)

一つのことでも人によって見方はそれぞれです。何が大切にこだわる「本質派」もいれば、実際の視点こそ大切と考える「現実派」もいます。その両方をふまえて一歩引いて見る「俯瞰派」もいます。この出来事も所見が割れました。「そう見えた」(33節)と言った人もいれば、「すばらしく良い地」(一四・7)と言った人もいました。なぜこのような違いが出たのか。もちろん「従い通した」

(二四・24)ことが重要だったの
は言うまでもありません。

しかし、それだけで全部を片付けてしまつてよいのだろうか、とも思うのです。たとえば、立場が語らせるということがあります。モーセは、何を言われてもカナンを目指す以外の選択肢がない立場でした。ヨシユアとカレブは中間管理職みたいなもので、上と下の目線を意識しなければならぬ立場でした。「せむとも、上つて行つて」(30節)という言い方は、上からの評価につながったかもしれませんし、民を励ましたかもしれません。



YS-BTC 聖会 水口功先生のメッセージに恵まれました

福音はきわめてシンプルです。しかし実際問題は、シンプルな見方が機能しないこともあります。ある現象が一つの理由で起きていることはまれで、背後にしばしば複雑な要因が存在するからです。そうせざるを得ない何かがあったかもしれないという見方が新しい展開を呼ぶこともあります。問題や失敗に関して、他の要因があったから良いのだと開き直るのは福音的ではありません。しかし、一つの理由で全部の説明を試みるのではなく、複数の視点でその意味を問い直してみると、神さまがどういう恵みを注ごうとされたかがわかることがあります。救われるとは、さまざまな要素が考慮されるということなのかもしれません。ですから暖かいのです。思えば、ずいぶん考慮してもらつてここまで来たと思えます。

神学エッセー

キリストと文化 古代教会 二つの戦い



宮崎 聖輝

は外との戦いだけでなく、内との戦い、言い換えるなら異端との戦いに直面していました。特に使徒たちが天に召された後の二世紀に入ると、この戦いが激しさを増し、福音を脅かす思想が教会の中に絶え間なく入ってきます。地中海全域に拡がったグノーシス主義、ローマのマルキオン、小アジアのモンタノス主義などはそのほんの一例です。

教会はこうした内との戦いを受け、三つの軸を打ち立てました。正典の編纂、信条の告白、そして監督の強化です。このようにキリストから受け継がれてきた福音を保とうとします。

ペンテコステから始まった教会は、聖霊の力強い御業とともに爆発的に地中海一帯に、西に東に、そして全世界へと拡がっていきます。そしてその拡がりには地理的拡大のみならず、民族的、社会的枠組みを超えた拡がりを見せ、ついにはローマ帝国をも飲みこみます。しかし改めて古代の教会史をふり返るとき、そこに至るまでの過程は前途多難であったことがわかります。大きく分けると、教会は二つの戦いを強いられました。一つは外との戦いです。教会は当初、ユダヤ人からの迫害を受けていきましたが、次第にローマ当局からの迫害にシフトし、帝国教会となるまで継続的ではありません。でも繰り返して迫害を受けます。帝国教会に至るまで少なくとも十人の皇帝が迫害に関わっています。特にディオクレティアヌスの迫害は教会歴史上最も過酷な迫害で、それは日本のキリスト教弾圧に匹敵するものでした。二つめは内との戦いです。教会

結果的ですが古代教会はこうした戦いを強いられながらも、かえって教会の質は高められ、純化されました。これは皮肉なことですが古代教会から帝国教会へとシフトした途端、教会の霊性は逆に後退しています。古代教父のテルトゥリアヌスは「教会が直面する戦いは、もみ殻を吹き飛ばす風のようにである。その風によって主の脱穀機は聖められている」と語りました。私たちが今この時代にあって強いられる戦いは無駄に終わるのではなく、かえってその戦いを通して私たちの信仰は強化され、福音の純粋性が保たれるのではないのでしょうか。主の助けを仰ぎつつ、今この時代に教会が直面する課題と真摯に向き合い、それに応答し続ける私たちがでありたいと思います。

◆前期のクラスを終えて

神の助けと恵みに与り

聴講生 斎藤純雄

「エベン・エゼル……ここまで主が私たちを助けてくださった。」

(Iサムエル七・12)

4月第一週からスタートした2017年度前期の聖宣神学院の学びも、7月第四週の補講週(今学期はしっかり3科目入りました)に引き続き第五週のテスト週で無事終了しました。

前年度の秋に聴講生として、自宅からの通いで念願のBTCでの学びが許され、片道1時間40分を健康のためと交通費の節約のため藤が丘から往復徒歩で一日も欠席することなく、この7月一杯まで通い通すことができました。背後の教会の皆様の厚いお祈りと御支援、院長先生を始め、学院スタッフの先生方・愛兄弟の温かいご配慮のゆえでありますことを覚え、心一杯の感謝と御礼を申し上げます。また、今年の年会を期して発足・スタートしたBTC後援会の存在と働きに、神学生一同大きな励ましをいただいております。前学期は、ひたすら学べるのが恵みで楽しくて年會まで、あつという間に過ぎたという感じでした。

今学期は、週4日eラーニングを入れて9科目を取りました。どの科目も先生方の力が入った重量級でしたが、何ととっても前の学期に比べて格段に増えた神学生各自の説教回数(チャペルの御用が4つ、説教演習が2つ、テストに代わる評価課題で2つ)が圧倒的でした。何も語るものがありません!私には語れませんと、ただひたすら神さまを見上げたときに、反って神さまの不思議な助けと恵みが豊かに与えられ、「キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。……私が弱い時にこそ、私は強いからです」(IIコリント一一・9、10)の大切な真理を学ばせていただいております。

●夏期実習の夏を迎え

緊張の夏! 立て直しの夏!

正規コース 竹内俊之

まだまだ、お暑うございませぬ。ポロット竹内号はこの夏でオーバーホール……体制立直しをおこないませぬ!題して「緊張感ある霊・肉の再構築」。

昨年、秋の入学から1年、学院スケジュールも一巡し、生活ペーパは馴染みましたが、気の緩みから6月に左掌を骨折し、ご迷惑と

ご心配をお掛けしました。お祈りとご支援へのお礼はこの私自身が「プロプロで贅肉質な霊・肉から↓筋肉質な学びの自然体」へ一刻も早く回復する事と心得て、以下を実践してまいります。(1)「緊張感ある肉体へ」(武闘家的な感じじゃありませんが)。其の一、「早朝ラン&ウォーキング7千歩の復活!」……これは脳みを躍動!促進と血圧沈降のため、早々に再開を誓います! 其の二、「食生活の改善」……糖分や脂肪分の摂取を控えてテレビタミン。野菜、お酢を中心にした、健康的な栄養摂取を心掛け、量も食べ過ぎずに「腹八分目」を心がけます! 其の三、「[◎]ですが……少しムキムキになる」……以前からの憧れボディ!触ってもプニプニしない。少し割れてる緊張感あるお腹になるため腕立てとかをやります



70周年記念事業 本館トイレの改修が始まりました

す! (2)「緊張感ある脳みそへ」(白味噌でなく赤だし)の八丁味噌風。其の一、「聖書通読の再開!」……以前から続けていて、中断していました。毎日、三章ずつを創世記から再び読み始めます! 其の二、「説教作成(連講目指し)の自主練習開始!」……神学院の授業や課題として「言われて作る」のではなく、関心のある分野、書きたい「人物」や「巻」を「連講」形式で書いてゆく。まずは、「ヨセフ」で書きたい! 其の三、「[◎]ですが、妻の梨瑛の遺作『小さなI・NO・CHI』をピアノで弾きたい!」……大好きなイエスさま、助けてください。

●夏期実習の夏を迎え

人格を通して いただくめぐみ

正規コース 峯尾仰生

「コリントの人たち。私たちはあなたがたに包み隠すことなく話していました。私たちの心は広く開かれています。」

(IIコリント六・11)

今年の夏期実習は前期に名古屋教会、後期は豊田教会に受け入れて頂き、感謝しております。多くの方と顔と顔を合わせて、お交わりをさせて頂く中で、人格を通して

て頂き、とても貴重な時間を過ごさせて頂いております。この貴重な時間の中で、私自身、本当に心を開き、自分の感情や思いに正直な姿勢でいるのかを神さまから問われる時があります。「神学生なので」、「年上なので」といった単純な理由により下手に背伸びをしたり、人の目を気にしすぎて計算して言葉を選んでいる時がありました。正直に自分の気持ちをお伝えせずに型にはまり、自分が傷つかないように守りの姿勢に入っている自分がいました。

しかし、「とにかく」の中で、中高生の素直な信仰告白と証しを聞かせて頂き、また実習先で多くの方と主にある交わりをさせて頂く中で、自然と心を開くことができ、瞬間がありました。その瞬間、喜びを覚え、神さまが心を開いて下さり、この交わりの中心に働いて下さっていると実感することができました。何かを伝えるということができないと思いついていた自分が、逆に人格を通して多くのめぐみを受けていることに気付かされました。

神さまの前では家族であり、心を開くことができる信仰の仲間と出会うことができ、神さまに感謝しかありません。この出会いを大切に、人格を通して頂けるめぐみを感じながら、夏期実習の貴重な1日1日を過ごさせて頂きたいと思っております。

私の神学生時代 ぶどう園に行きなさい 10期生●前田修二



私は昭和30年3月、鹿児島商業高校を卒業後就職のため上京し、下宿先の親戚宅の家庭集會に導かれ、それがきっかけとなって高津教会へ出席する事になりました。教会の伝道會に出席し、竿代忠一師のメッセージを通して自分の罪を示され、罪を悔い改めました(マタイ二三章27節)。昭和31年7月29日に信仰告白の許、洗礼の恵みに与りました。

その後、教団の第7回林間聖會(昭和32年8月10日)の宣教會に出席、萬田二雄先生の説教を聞き、「あなたもぶどう園に行きなさい。相当のものをあげるから」。マタイ二〇章4節の御言葉によって直接献身を表明しました。その翌年に、聖宣神學院の10期生として入学が許されました。社会経験も浅く、信仰生活も短い月足らずの者の入学は、多くの欠けを補い刺激を与え、信仰の成長を期待しての恩師の配慮ある推薦だったと感謝しております。

バラエティーに富んだクラスでした。良い意味で互いに切磋琢磨しての訓練と学びでした。

何よりも素晴らしかったのは、初代院長直々の御指導のもと、また経験豊かな教授陣、宣教師に囲まれ、各々の伝道、牧会経験をを通して、教えられる事が多くありました。実践神学、メソジズム、月曜日の夜の合同祈禱會(半徹夜の祈り)日曜日の近在の教会に2人1組で遣わされるミッションでの奉仕、路傍伝道から導かれる求道者の個人伝道は、救霊に対する熱情が培われる機会となりました。説教に関しては、若い時はなるべく神様から直接聖書を通して与えられるために題目説教を試みるように、と教えられました。

在学中の画期的な出来事としては、夏期実習で、郷里伝道が許されたことでした。その結果として和歌山教会、始良教会が誕生するに至りました。

召命時の「あなたがたもぶどう園に行きなさい。相当のものをあげるから」のみことばは真実で、確かなものでした。両親が救われ、妹たちが信仰を持ち、心霊的にも目に見える形においても数多くの主の祝福を受けることができました。10年前から、伝道者としての終りの時を郷里、始良の地で、静かに生活し、感謝の中に奉仕の日々を送っています。

私にとって聖宣神學院は、伝道者としての基本姿勢と、大切な秘義を教えられたところです。

同窓生の近況

39期生
堺教会●萬田真理子



神學院卒業後、BTCスタッフ1年、台湾5年、堺教会21年目。教団の引越しを経験しながら言語、国籍を越えて実に多くの人々と出会い、27年目を迎えています。

今年結婚25年の節目、台湾で生まれた長男は社会人2年目、次男は高校3年生。幼少期から全く違う環境で生まれ育った二人を、主はその環境・賜物を生かして用い、導き、紆余曲折ありつつも、ここまで成長させてくださいました。

堺はだんじり祭りの色濃い伝統ある町。最初は戸惑いましたが、小中学校のPTA活動等に夫婦で関わって以来、個人・教会共に地域の方々と良い関係を更新中。近隣牧師會の信頼関係が生まれ、協力しながらスポーツやコンサート等を用いて学校関係、友人知人に福音を届ける働きが続いています。

息子たちの成長に伴い、特にここ数年、友達・関係者たちが頻繁に出入りする教会になりました。

2年前から「とにキャン」奉仕に参加し、体力の衰えを実感しつつも、祈りと靈の奉仕に携わる喜びと生きがいを味わう日々です。

神學院スタッフ…恵みの想起

夏期実習期間のキャンパス

經理課 渡辺真理

神學生が実習教會へ派遣されて神學院はいま、夏期体勢に入っております。普段より寮と本館へ行き来することが多くなり、私は今まで目に見えていなかったものに遭遇するようになりました。青々と茂る夏の樹木。畑の野菜の成長の早さ。あまり見たくない爬虫類や昆虫たちの動き。(本館玄関前に大きな蜂の巣を発見し、恐る恐る玄関へ出入りする私です。)

人の出入りの少ない時期ですが、神學院には多くの生き物たちがキャンパス内を賑わせています。夏の暑さが身に堪える時、セミの大きな鳴き声に励まされることもあります。このような小さな喜びを実感できる恵みの時です。

「目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。」(イザヤ四〇・26)

●東京フリー・メソジスト桜ヶ丘教會の水口功先生をお招きして、YS・BTCが行われました。夜の聖會には近在の教會の皆さまが参加くださいました(写真参照)。

●10月のオープンキャンパス、年末のBTCリトリートにご参加ください。BTCリトリートの聖會講師は沼津シオンの荻野倍弘先生です。年末の静かなひとときをキャンパスでお過ごしください。

●創立70周年記念事業は、今年を第一期、来年以降を第二期としてキャンパス整備を行うことが決定、本館トイレ改修、男子寮の個室整備の工事が始まりました。19年の記念感謝の時までに段階的に整備し、皆さまをお迎えし、たく願っています。お祈りください。

●後援會からお願い 各教會の世話人のご推薦をお願い致します。お問い合わせは中山會長まで。

●神學院祈り會は5日(火)です。

学苑だより



サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。7月の会計報告をさせていただきます。

7月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教會員による
「神學院サポート献金」
¥874,400
教會団体による「神學院献金」
¥418,495
合計¥1,292,895
その他の献金(一時・特別)
¥272,460

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「あなたがたは、西に雲が起るのを見るときに、『にわか雨が来るぞ。』と言い、事実そのとおりになります。また南風が吹きだすと、『暑い日になるぞ。』と言います。『暑い日になります。』と、事実そのとおりになります。……どうして今のこの時代を見分けることができないのですか。」

(ルカ二章54〜56節)

今夏は予想外の雨天が続く夏となりました。また昨今は天候を見分ける以上に、時代を見分けるのも困難な様相を呈しています。改めてこの時代に信仰者として、伝道者として生かされている意味と価値を覚えて、主の憐れみと知恵をいただいで歩みましょう。

昨日も各地域での聖会や中高生とにキャンなど、教区・教団のプログラムは無事開催され、恵みのうちに終えられたことは感謝でした。今月も各地の聖会が開催されます。この間の各教会での営みも合わせて、各教会に内外の結実を祈り合いましょう。

■本部

(会議)

11日(月)〜12日(火)

BA・教区主事連絡会

教団運営委員会(人事委員会)

(教団謝恩日聖日)

9月17日(日)は教団の謝恩日聖日として定められています。こ

の目を覚え、感謝献金の実施及び厚生資金献金のアピール、厚生委員会の働きの祝福の祈りをお願いいたします。

■国内教会局

〈9月に行われる聖会〉

◇関西聖会

17日(日)〜18日(月)

講師・内山勝師

会場・シーパル須磨

◇東関東聖会

18日(月)〜19日(火)

講師・中西雅裕師(日本ホーリネス教団横浜教会)

会場・船橋FACEきららホール

◆九州青年大会

17日(日)〜18日(月)

〈9月に行われる教区会〉

4日(月)〜5日(火)

南九州教会会

19日(火) 東関東教会会

静岡教会会

25日(月) 東京教会会

神奈川教会会

26日(火) 北越教会会

〈JHA関係〉

18日(月) 宮城聖化大会

講師・石田学師

23日(土) 山形聖化大会

講師・竿代照夫師

■世界宣教局

(会議)

26日(火)

世界宣教局運営委員会・局員会

▽富澤香宣教師は8月21日(月)

にザンビアより帰国しました、今

月半ばから年會まで巡回報告にありま

栖教会・葛田敬子師までご連絡ください。

▽平瀬義樹・光世宣教師ご家族を、

夏の短い期間でしたが、教会や夏

期聖会にお招きくださり、ありが

とうございました。先月末、台湾

に再赴任しました。

▽葛田康毅・由理宣教師も8月か

ら巡回報告を開始し、来年年会ま

で続けられます。今後の働きのた

めに主の導きをお祈りください。

▽11月19日(日)の宣教聖日に向

けて、宣教ビデオの撮影、編集作

業が行われています。今年も、宣

教の啓蒙につながる、宣教ビデオ

が作成できますように、お祈りく

ださい。

《IWF関係》

▽ザック・マッツ宣教師、ロビン・

ホワイト宣教師、ホーリー・ミュー

ールハイゼン宣教師たちは、「と

にキャン」や聖会に参加し、奉仕

をしました。宣教師を教会にも積

極的に招きください。宣教師を

招くための経済的援助が必要な場

合は、11月14日(火)のIWFの

理事会までに申請書の提出をお願

いいたします。お問い合わせは委

員の梅田登志枝師まで。

■教育局

(全国とにキャン関係)

この夏は第10回中高生とにキャン

ン(於・聖山高原キャンプ場)が

開催され、恵みの時となりました。

中高生・青年たちの信仰の確立と

成長のために、引き続きお祈りし

ましよう。多くのお祈りとご奉仕

ゆえに御名を崇めます。

〈信徒伝道者養成関連〉

26日(火) 信徒伝道者運営委員会

26日(火)〜27日(水) 信徒伝道

者養成課程スクーリング

■聖宣神学院

▽夏期実習は後期に入りました。

9月25日(月)が帰院日です。任

地は以下の通り。引き続きお祈り

ください。

伊藤安司兄(大宮)

竹内俊之兄(中目黒)

峯尾仰生兄(豊田)

金成星美姉(別府)

大谷のぞみ姉(上田)

高木暁子姉(船橋)

▽神学院祈り会は9月5日(火)・

午後6時から。本部会議室です。

▽オープン・キャンパスのご案内

10月20日(金)午後から21日(土)

昼まで。案内チラシをご覧ください。

体験授業は内山勝先生、院長

が担当。教会申込締切は9月17日

(日)です。

▽オープン・キャンパス2「BT

Cリトリート」ご案内

12月28日(木)夜から30日(土)

午前まで。夜の聖会は沼津シオン

教会の荻野倍弘先生。聖会は一般

公開です。

▽信徒土曜講座の秋学期はこれか

らでも申込が可能です。

■出版事業部

8日(金) 出版事業部全体部会

秋以降、年會までの実施事業に

ついての検討・相談をいたします。

出版事業部の働きに関するご意見、

ご要望がありましたら、書面にて

お知らせください。部会にて検討

させていただきます。

消息報告



▽8月15日、新潟教会の黒川哲・多恵師夫妻のご家庭に第2子長女が誕生されました。お名前は「あかり」さん(イザヤ六〇・19)です。ご祝福をお祈りしまし

よう。

▽8月17日、国光幾代子師(引退教師)は98年の地上生涯を走り終えて、主のみもとに召されました。21日(月)に聖宣神学院教会において告別式が営まれました。ご遺族の上に天よりの豊かなお慰めをお祈りいたします。

▽肺がん治療中の江藤博久師(退任)のためにお祈りください。

▽山形教会(釣俊栄師)では、降雪時期前に会堂建設工事を終えたいと願っておられます。当初の予定よりも遅れ気味ですが、間に合うようお祈りください。

▽女性牧師ホームに葛田康毅・由理宣教師が年會まで滞在されます。電話が設置されました。046(2508)6968(FAAX共用)

▽安食教会の長谷美代子先生は病院での検査の結果、食道がんが見つかりました。しばらく治療に専念されます。お祈りください。副牧の島田貴子先生と安食教会のためにも覚えてお祈りください。

教報PDFパスワード#2610

発行人 藤本 満 編集者 北田直人
発行所 東京都千代田区神田駿河台一

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇
OCCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)
郵便振替 001107133609